

西夏文『新集金砕掌置文』の研究 6¹⁾

小高裕次
(文藻外語學院)

A Study of "Gold Nuggets in the Palm" 6

KOTAKA, Yuji
(Wenzao Ursuline College of Languages)

キーワード：西夏語, 『新集金砕掌置文』

0. はじめに

0.1. 本稿の目的

筆者は小高(2005, 2006, 2007, 2009a, 2010)において、西夏人によって作られた西夏文字の識字教育用テキストである『新集金砕掌置文(以下、『金砕』と略)』の一部について紹介し、その日本語訳を試みた。本稿では、引き続き『金砕』本文第77連から第100連までの紹介を行う。底本もこれまでと同様俄羅斯科學院東方研究所聖彼得堡分所・中國社會科學院民族研究所・上海古籍出版社(1999)所収の『金砕』No. 741である。

また、本稿では、西夏文本文を紹介するとともに、漢夏対象語彙集『蕃漢語合時掌中珠(以下、『掌中珠』と略す)』²⁾および西夏語語彙集『三才雜字(以下、『雜字』と略す)』³⁾における『金砕』収録文字の使用状況を解説する。

1. 本論

以下に『金砕』本文第54連から第76連までの本文を掲げる。

1)本研究は行政院國家科學委員會專題研究計畫(計畫編號 NSC 97-2410-H-160-004)の補助金によって行われた。

2)『掌中珠』については、西田(1966)、骨勒茂才著 黄・聂・史整理(1989)を参考にした。

3)『雜字』については、李・中嶋(1997)を参考にした。

77) ① 𪗇𪗈 ② 𪗉 ③ 𪗊 𪗋

1yI:2 2byu 2chor 1sho" 1vi:
耕牛は下僕に餌を与えさせ

④ 𪗌 ⑤ 𪗍 ⑥ 𪗎

1tso:r 1ji:q' 1lan 1phi:' 2kye⁴⁾
石臼は後家を使役する。

- ① 𪗇𪗈 1yI:2 2byu 𪗉 1yI:2 は犁、𪗈 2byu は牛。農耕用の牛と解釈した。
② 𪗉 2chor 下僕、奴婢。
③ 𪗊 1sho" 1vi: 𪗊 1sho" は「餌をやる」、𪗋 1vi: は「送る」の意。ここでは 𪗋 1vi: を使役の意味であると解釈した。
④ 𪗌 1tso:r 1ji:q' 石臼。『掌中珠』では「碓磑」の訳語として記載されている。
⑤ 𪗍 1lan 寡婦、後家。
⑥ 𪗎 1phi:' 2kye 使役する。ここでは「石臼は後家に回させる」の意であると思われる。

78) ① 𪗏 ② 𪗐 𪗑 𪗒

1hwa 2shyon 2ldlr 2ryeq2 1do
和尚は経を読み

𪗓 𪗔 ③ 𪗕 𪗖 𪗗

2tseu 1cha:2 1zi: 1mi:' 2le:'
齋が終わってお布施を待つ

- ① 𪗏 1hwa 2shyon 和尚。漢語からの借用語である。
② 𪗐 2ldlr 2ryeq2 經典。仏典における「～経」の訳語として用いられる。
③ 𪗕 1zi: 1mi:' 布施。西夏語の韻書『文海』⁵⁾では、「𪗓𪗔𪗕𪗖𪗗 𪗕は布施なり」という記述が見られる。また、夏訳『大方広仏華嚴経』⁶⁾では、「施」の訳語として 𪗕 1mi:' が用いられることが多い。

79) ① 𪗘 𪗙 𪗚 𪗛

2gu:' 1tsyer2 1genq 1na:q 1kyuq
道士は星の神に供え、

𪗜 𪗝 ② 𪗞 𪗟 𪗠

2me:' 1ka:q2 2ryeq'2 2dzyen2 1nur
名を唱えて四方を示す。

- ① 𪗘 2gu:' 1tsyer2 直訳すると「救いの法」であるが、道教における道士を表す。西夏語文献におけるその他の用例については、韓(1998)に詳しい。
② 𪗞 2ryeq'2 2dzyen2 𪗟 2ryeq'2 は「方向」、𪗠 2dzyen2 は「隅」の意。『掌中珠』に「𪗜𪗝𪗞 四方四隅」という一節が見られる。𪗞𪗟𪗠 2ryeq'2 2dzyen2 1nur とは、四方を拝する道教の儀式のことであると思われる。

4) 西夏語の推定音は、西田(1997) pp49-58 に基づく。また、表記は基本的に荒川(2002)の簡易表記に従っている。

5) 『文海』については、史・白・黄を参照した。

6) 『華嚴経』については、西田(1975, 1976, 1977)を参照した。

80) ① 𦉳𦉳 ② 𦉳𦉳𦉳

lji:q 1chya: 1son 1jyu 2byu

宴の上では樂人呼び

③ 𦉳𦉳 ④ 𦉳𦉳𦉳

1si:q' 1phI: 1penq 1vi: 2tshi:

葬式には祓師が侍る

- ① 𦉳𦉳 lji:q 宴。西夏の詩『月月樂詩』によれば、西夏では毎月国家主催による宴が行われていた。
- ② 𦉳𦉳𦉳 1son 1jyu 『掌中珠』では「樂人」の訳語として記載されている。また、『雑字』にも記載が見られる。
- ③ 𦉳𦉳 1si:q' 1phI: 𦉳 1si:q' は漢語「死」の借用語、𦉳 1phI: は動詞「失う」であるが、第一句「宴」との対応から考えると、聶・史(1995)の解釈「喪葬」が妥当であると思われる。
- ④ 𦉳𦉳𦉳 1penq 1vi: 𦉳 1penq は『文海』で「～害悪を驚かせ、はらう者の意なり」と説明されている。𦉳 1vi: は「客」の意。西夏では仏教・道教の他に土着の信仰もなお盛んであった⁷⁾。𦉳𦉳𦉳 1penq 1vi: は死の穢れを祓う祓師であると考えられる。

81) ① 𦉳𦉳 ② 𦉳𦉳𦉳

1lhI: 2ri:r 2tsheu 2yi:q 2lwl

螺鈿の轡や鞍を買い、

③ 𦉳𦉳 ④ 𦉳𦉳𦉳

2swI: 1pyen2 2ra:r 1lyu 2biq

氈帳や馬氈を探す。

- ① 𦉳𦉳 1lhI: 2ri:r 珂貝（くつわ貝）。『雑字』「男服」の項に記載が見られる。ここではくつわ貝を用いた装飾品の意ととった。
- ② 𦉳𦉳𦉳 2tsheu 2yi:q 轡と鞍。『掌中珠』では、𦉳 2tsheu が「轡」、𦉳𦉳 2ra:r 2yi:q が「馬鞍」の訳語として記載されている。
- ③ 𦉳𦉳 2swI: 1pyen2 氈帳。『雑字』「男服」の項に記載が見られる。遊牧民が使用する移動用住居の外側を蔽うフェルトの類であると思われる。
- ④ 𦉳𦉳𦉳 2ra:r 1lyu 馬氈。鞍の上に敷く布。『掌中珠』でも「馬氈」の訳語として記載されている。

82) ① 𦉳𦉳 ② 𦉳𦉳𦉳

1lhi:q' 1ldi:q 1bI:r 1'aq 2zon

弓矢・刀劍を取り

③ 𦉳𦉳 ④ 𦉳𦉳𦉳

1shyI 1shyo 2bI 2'a 1shI:

先導・輜重が征く

- ① 𦉳𦉳 1lhi:q' 1ldi:q 弓と矢。
- ② 𦉳𦉳𦉳 1bI:r 1'aq 刀と劍。𦉳 1bI:r は『掌中珠』にも「刀」の訳語として用いられている。
- ③ 𦉳𦉳 1shyI 1shyo 「先導する」という動詞の意味で使われることが多いが、ここでは名詞であると判断した。
- ④ 𦉳𦉳𦉳 2bI 2'a 𦉳 2bI は「従う」という動詞、𦉳 2'a は場所格の格助詞であるが、𦉳𦉳 2bI

7) 西夏語の土着信仰については、史(2007)に詳しい。

2'a は李(1997)では「地名」とされ、「籘鞞髡養 没哈天山」という使用例が挙げられている。また、Кычанов(2006)では上記の地名としての用法の他に 籘鞞鞞 2bI 2'a 2ci:q 「運送；載重車隊」という用法が挙げられている。ここでは後者の意味に解釈した。

83) ① 籘鞞 ② 鞞鞞鞞

1she: 1lhyer2 2du2 1dza: 1pwe
大麦・麦・豆は長く伸び

③ 鞞鞞鞞鞞

2so 1khwo 1zwI:r 1vwi 2nyI:r
粟・稷・秫は熟するのが遅い。

① 籘鞞 1she: 1lhyer2 『掌中珠』では、籘 1she: は「大麦」、鞞 1lhyer2 は「麦」の訳語として記載されている。また、『雑字』「穀物」の項にも記載されている。

② 鞞 2du2 『掌中珠』では、「豌豆（[豆完]豆）」「黑豆」「藎豆」の「豆」の訳語として用いられている。また、「豌豆」「藎豆」は、『雑字』「穀物」の項にも記載されている。

③ 鞞鞞鞞 2so 1khwo 1zwI:r 粟・稷・秫（もちあわ）。『掌中珠』では、鞞 2so は「粟」、鞞 1khwo は「（[广/禾]）うるちきび」の訳語として記載されている。また、『雑字』「穀物」の項には鞞 2so・鞞 1khwo とともに 籘 1zwI:r も記載されている。

84) ① 鞞鞞鞞 ② 鞞鞞

1sho" 2shi: 1jya: 2nuq 2shyen
食糧を計るのは枴

③ 鞞鞞鞞 ④ 鞞鞞

1gwur 1sho:n 1kar' 1lhyI'2 2lyu
真鍮・鉄を計るのは斤・両

① 鞞鞞 1sho" 2shi: 鞞 1sho" は食べ物。鞞 2shi: は穀物の総称で、『雑字』では項目名として用いられている。

② 鞞鞞 2nuq 2shyen 枴。『掌中珠』では「料枴」の訳語として記載されている。

③ 鞞鞞 1gwur 1sho:n 真鍮と鉄。それぞれ『雑字』「宝」の項に記載されている。

④ 鞞鞞 1lhyI'2 2lyu 斤と量。重さの単位である。

85) ① 鞞 ② 鞞 ③ 鞞 ④ 鞞

2no' 2'I:r2 2cya: 1tshyin2 2ryeq'2
檻褸布や絹は尺・寸で測り

④ 鞞鞞 ⑤ 鞞鞞 ⑥ 鞞

2nyu 2gwer 1se 2mi:' 2'ya
大きな数は計算して求める（?）

① 鞞 2no' 粗末な布。

② 鞞 2'I:r2 絹。『雑字』では項目名として使用されている。

③ 鞞 2cya: 1tshyin2 長さの単位「尺」「寸」。漢語からの借用語である。

④ 鞞鞞 2nyu 2gwer 鞞 2nyu は「夥しい数」、鞞 2gwer は「数」の意。

⑤ 鞞鞞 1se 2mi:' 数える。計算する。

⑥ 鞞 2'ya 鞞 2'ya は本来「（雨や霧が）降る」という意味を持つ動詞であり、ここでの 鞞 2'ya が何を意味するのかがわかりにくい。この一句を、西田(1970)は「多寡を数えて決めます」、聶・史(1996)は「大数估算得」と訳している。

86) ① 𪗇𪗈𪗉𪗊𪗋

2do 1pha 2wi 1tenq 1leu
違いを言えば一つずつ

① 𪗇𪗈 2do 1pha 𪗇𪗈 2do 1pha は仏教経典で「差別」の訳語としてしばしば使われる。

② 𪗉𪗊 2thwI: 2ldi:q2 「結合する」の意味であるが、夏訳『類林』第四卷⁸⁾に「𪗉𪗊 𪗋𪗌𪗍𪗎 七と七をかければすなわち四十九となる」とあるように「かける」の意味でも用いられる。

② 𪗉𪗊𪗋𪗌𪗍

2thwI: 2ldi:q2 1nuq 2yi:r 2ri:r
集まれば千百億

87) ① 𪗏𪗐 ② 𪗑𪗒 ③ 𪗓𪗔𪗕𪗖

2zer 2ryen2 1chi: 1se: 2pwoq
豹や熊は肉や血を食らい

① 𪗏𪗐 2zer 『掌中珠』では、𪗏𪗐 2ldi 「豹虎」の訳語として用いられている。

② 𪗑𪗒 2ryen2 『掌中珠』では、𪗑𪗒 2byu 2ryen2 「象熊」の訳語として用いられている。

③ 𪗓𪗔 1chi: 1se: 肉と血。『雑字』「人体」の項に記載されている。

④ 𪗕𪗖 1ta 1jyI 『掌中珠』では、𪗕 1ta が「沙狐」、𪗖 1jyI が「野狐」に対応している。また、『雑字』「野獣」の項にも記載されている。

⑤ 𪗗𪗘 1sI: 2shi:q 野草。『雑字』に記載されている。また、𪗗𪗘 2shi:q は『雑字』において項目名としても用いられている。

④ 𪗕𪗖 ⑤ 𪗗𪗘𪗙𪗚

1ta 1jyI 1sI: 2shi:q 2'yu
狐は野草を探す

88) ① 𪗛𪗜 ② 𪗝𪗞𪗟

1lhyI'2 2nger 1si: 1na 2pen
鹿や麋は木の深くに逃げ、

① 𪗛𪗜 1lhyI'2 2nger 鹿と麋。『雑字』「野獣」の項に記載されている。また、『掌中珠』にも「鹿麋」の訳語として記載されている。

② 𪗝 1si: 木。『雑字』では項目名としても使用されている。ここでは、「森」の意味で解釈の方が適切かもしれない。

③ 𪗟𪗠 1rar 1tshI: 『掌中珠』では「山羊」の訳語として使用されている。また、『雑字』「野獣」の項にも記載されている。

③ 𪗟𪗠𪗡𪗢𪗣

1rar 1tshI: 2le: 1ra:r ?
山羊は見て飛び出す

89) ① 𪗥𪗦 ② 𪗧𪗨𪗩

2rar 2mI 1nyeq'2 1ldwi:q' 2zir
泉（の水）は野を走って注ぎ、

① 𪗥𪗦 2rar 2mI 泉。『文海』では「泉原」の訳語として用いられている。また、『雑字』

③ 𪗪𪗫 ④ 𪗬𪗭𪗮

1gyu 2kha: 2nyu 1sho" 1thi:
水路や井戸で良き家畜は飲む

8) 西夏語訳『類林』については、史・黄・聶(1993)を参照した。

「河海」の項にも記載されている。

- ②𪛗𪛘𪛙 1nyeq'2 1ldwi:q' 2zir 𪛗 1nyeq'2 は「獣」という意味を持つため、聶・史(1995)は「泉源獸奔繞」と訳している。しかし、𪛗 1nyeq'2 は「野」という意味を持つ上、𪛘 2zir は本来「灌水する」という意味を持つ動詞である。そこで、上記のように翻訳してみた。
- ③𪛚𪛛 1gyu 2kha: 溝と井戸。『掌中珠』では「渠井」の訳語として用いられている。
- ④𪛜𪛝 2nyu 1sho" 𪛜 2nyu は「家畜」。𪛝 1sho" は形容詞「良い」で、直前の 𪛜 2nyu を修飾している。

90) ①𪛞𪛟 ②𪛠𪛡𪛢

2khyi 1ngur 1sa: 1khya 1ngyi

ヤクを射殺すのは難しく、

③𪛣𪛤 ④𪛥𪛦𪛧

1tsI: 2'e: 1shi:' 1sI: 2ldI:

カモシカを屠るのは容易

- ①𪛞𪛟 2khyi 1ngur ヤク（犛）。『掌中珠』では「犛牛」の訳語として使用されており、『雑字』にも記載されている。また、𪛟 1ngur は牛の総称としても用いられる。『雑字』では項目名として用いられている。
- ②𪛠𪛡𪛢 1sa: 1khya 1ngyi それぞれ、𪛠 1sa: 「殺す」、𪛡 1khya 「射る」、𪛢 1ngyi 「難しい」。直訳すると「殺すのに、射るのは難しい」となるが、ここでは意識した。
- ③𪛣𪛤 1tsI: 2'e: 『掌中珠』では、𪛣 1tsI: は「殺[羊歴]」、𪛤 2'e: は「羊」の訳語として使用されている。また、『雑字』では、𪛣 1tsI: が羊類の総称として項目名に使用されている。
- ④𪛥𪛦𪛧 1shi:' 1sI: 2ldI: それぞれ、𪛥 1shi:' 「屠る」、𪛦 1sI: 「死ぬ」、𪛧 2ldI: 「易しい」。𪛦 1sI: 「死ぬ」は自動詞であるため、直訳すれば「屠れば死にやすい」となるが、ここでは意識した。

91) ①𪛨𪛩 ②𪛪𪛫𪛬

2ci:q 2'wyeq 2la 2dI: 1kho:n2

荷を運ぶのに駱駝は強く

③𪛭𪛮 ④𪛯𪛰𪛱

1se' 1kya: 2ldwi:q' 2wi 2ja:

騎乗や荷駄に驢馬は弱い

- ①𪛨 2ci:q 𪛩 2ci:q は「荷物」。『孫子』には 𪛨𪛩 2ci:q 1lhyI'2 「輜重」という用法も見られる。
- ②𪛪𪛫𪛬 2la 2dI: 駱駝。『掌中珠』では「駱駝」の訳語として記載されている。また、『雑字』では独立した項目名となっている。
- ③𪛭𪛮 1se' 1kya: 𪛭 1se' は「騎乗する」。𪛮 1kya: は『雑字』に𪛮𪛨 1kya:2ci:q、『孫子』に 𪛮𪛩 1kya: 2jI: という用例があり、いずれも「輜重」を意味するが、ここでは「荷を載せる」という意味の動詞であると解釈した。
- ④𪛯𪛰𪛱 2ldwi:q' 2wi 驢馬。『掌中珠』では「馿」の訳語として使用されている。

92) ① 𪗇𪗈 ② 𪗉𪗊𪗋

1'wI:r2 1laq 2tI 2cyuq 1chI:

鷲鷹は羽が狭く

③ 𪗌𪗍 ④ 𪗎𪗏𪗐

2gwa:n 2te: 1khwyI 2sa 2lon

頑羊の角は広い(?)

① 𪗇𪗈 1'wI:r2 1laq 共に猛禽類を指す。『雑字』「飛禽」の項に記載されている。また、𪗈 1laq は『掌中珠』において 𪗇𪗈 1wi 1laq の形で「鷹雕」の訳語として使用されている。

② 𪗉𪗊𪗋 tI 2cyuq 𪗉 tI・𪗊𪗋 2cyuq 共に「羽根・翼」の意。

③ 𪗌𪗍 2gwa:n 2te: 『掌中珠』では「頑羊」の訳語として使用されている。また、『雑字』「野獸」の項にも記載されている。

④ 𪗎𪗏𪗐 1khwyI 2sa 2lon 𪗎 1khwyI は「角」、𪗏 2lon は形容詞「広い」であるため、前の句との対応から考えても「角は幅が広い」という内容になることは間違いないと思われるが、本来「謀る」あるいは「接する」という動詞である 𪗏 2sa がなぜここで用いられているかは不明である。

93) ① 𪗑 ② 𪗒 ③ 𪗓𪗔𪗕

1shwyI 1lhyI'2 1mIr 2dzu 1tshyen2

鼠や狼の口は細く

𪗖𪗗 ④ 𪗘𪗙𪗚

2lhya:2 1dzI 1shwi: 2ko:r 1ryeq'2

口で捉えて歯が巧み

① 𪗑 1shwyI 鼠。『掌中珠』では 𪗑 1shwyI が漢語「老鼠」の訳語として使用されている。また、『雑字』では 𪗑 1shwyI 「鼠」が「野獸」の項に記載されている。

② 𪗒 1lhyI'2 狼。『掌中珠』にも「狼」の訳語として記載されている。『雑字』「野獸」の項には、𪗒 1lhyI'2 1wyeq'2 「豺狼」の記述がある。

③ 𪗓𪗔𪗕 1mIr 本来は「唇」の意。二句目第一字の 𪗖 2lhya:2 と共に 𪗖𪗓 2lhya:2 1mIr の形は、『雑字』「人体」の項に記載されており、『掌中珠』では「口唇」の訳語として用いられている。

④ 𪗘𪗙𪗚 1shwi: 2ko:r 歯と牙。『雑字』「人体」の項に記載されており、『掌中珠』では「歯牙」の訳語として用いられている。

94) ① 𪗛𪗜𪗝𪗞𪗟

? 2she: 2di:r 1ldwyI'2 1lo

貸しを催促し借りを返す

② 𪗠𪗡 ③ 𪗢𪗣𪗤

2da: 1kho:n2 1myor2 2lhi:q 1'ye2

与えて実(じつ)を受け取る

① 𪗛𪗜 ? 2she: 貸し。𪗛 ? 「貸し」、𪗜 2she: 「求める」。𪗛𪗜 ? 2she: の形は『類林』第8巻に見られる。

② 𪗠𪗡 2da: 𪗠 2da: は完了相を表す動詞接頭辞である。

③ 𪗢𪗣 1myor2 「虚実」の「実」の意味を持つ語である。ここでは「実利」の意味であろうか。

95) ① 𦉰𦉰 ② 𦉰𦉰 ③ 𦉰

2nyyon 1di:q' 1dyu 2ryeq'2 1ku

報告したり告訴したりすれば、

④ 𦉰𦉰 𦉰𦉰 ⑤ 𦉰

2se: 2jye 1pho: 2waq 1phi:

信頼できる者(?)に確かめさせる。

- ① 𦉰𦉰 2nyyon 1di:q' 𦉰𦉰 2nyyon は漢語「状」からの借用語である。『掌中珠』では「𦉰𦉰 𦉰𦉰 諸司告状」という一節が見られる。𦉰 1di:q' は「告げる」という意味の動詞である。
- ② 𦉰𦉰 1dyu 2ryeq'2 告げる、述べる。『文海』に「𦉰𦉰 𦉰𦉰 𦉰𦉰、𦉰𦉰、𦉰𦉰 𦉰𦉰 は 𦉰𦉰 𦉰𦉰 なり。服さず、告げるの謂。」とある。
- ③ 𦉰 1ku 原因、理由を表す助詞。漢語から翻訳された文献では「則」に対応することが多い。
- ④ 𦉰𦉰 𦉰𦉰 2se: 2jye 1pho: 2waq 聶・史(1995)はこの一句を「情愿令卜筮」と訳しているが、前の句が報告や告訴について述べているのに、この句が占いに関することを述べているのでは、前後のつながりがはっきりしない。𦉰𦉰 1pho: 2waq は「検査する」という意味もあるため。「𦉰𦉰に確かめさせる」と解釈するべきであろう。𦉰𦉰 2se: 2jye については、𦉰 2se: 「智慧」・𦉰 2jye 「信」という名詞の組み合わせであるため、「智慧があり信頼できる人物」であると解釈した。
- ⑤ 𦉰 1phi: 𦉰 1phi: は使役の助動詞である。

96) ① 𦉰𦉰 ② 𦉰𦉰 ③ 𦉰

1dzI: 2dI: 1ta:q 1ne' 1zenq

準備し伝達する時、

④ 𦉰𦉰 ⑤ 𦉰𦉰 𦉰

1dzyu 2bi: 1ta:q 2ne: 1'ar

指揮は逼迫し差し迫る

- ① 𦉰𦉰 1dzI: 2dI: 準備。
- ② 𦉰𦉰 1ta:q 1ne' 伝達する。『文海』では𦉰 1ta:q ・𦉰 1ne' どちらにも、「一𦉰𦉰𦉰。𦉰𦉰 𦉰𦉰 伝達なり。仲間に取り与えるなり」という注が見られる。
- ③ 𦉰 1zenq 𦉰 1zenq は「～するとき」という副詞節を作る助詞である。
- ④ 𦉰𦉰 1dzyu 2bi: 指揮。『掌中珠』に「𦉰𦉰𦉰𦉰 盡皆指揮」や「𦉰𦉰𦉰𦉰 大人指揮」という句がある。
- ⑤ 𦉰𦉰 1ta:q 2ne: 1'ar 𦉰 1ta:q と𦉰 2ne: は『同音』で互用の注の関係にあり、「逼迫」の意。𦉰 1'ar も「緊迫」の意味を持つ。

97) ① 𦉰𦉰 ② 𦉰 ③ 𦉰𦉰

1mi:q 2dzi:q' 1ha: 1ke: 2shwo:n

呼び集め、速やかに納め、

④ 𦉰𦉰 𦉰 ⑤ 𦉰

1ldi:q 2lduq 1zI:r 2pho: □

契約の重さを弁別する

- ① 𦉰𦉰 1mi:q 2dzi:q' 共に動詞で、𦉰 1mi:q は「呼ぶ」、𦉰 2dzi:q' は「集める、集まる」の意。
- ② 𦉰 1ha: 副詞 𦉰 1ha: 「急いで、速やかに」はあとの動詞句を修飾する。

- ③𠄎 1ke: 𠄎 1ke: は希求法を表す動詞接頭辞である。
- ④𠄎 1ldi:q 2lduq それぞれの文字の意味は、𠄎 1ldi:q が「落ちる」という動詞、𠄎 2lduq が名詞「柄、棒」である。「契約」という訳語は Кычанов(1996) に依った。
- ⑤𠄎 2pho: 𠄎 底本では一字欠けている。聶・史(1995)はこの二次で「分別」という意味になるであろうと推測している。であるならば、西夏語文献の使用例から 𠄎 2kar 「弁別する」が当てはまると思われる。

98) ①𠄎 ②𠄎

1bo' 2shyeu 2ryeq'2 1ml: 2naq

姿形は間違えても、

③𠄎 ④𠄎

1phl 1dzyen2 2kyeu 1kya 1chyen

値段の違いは少ない

- ①𠄎 1bo' 2shyeu 容貌。𠄎 1bo' は漢語「貌」からの、𠄎 2shyeu は漢語「色」からの借用語である。
- ②𠄎 2ryeq'2 1ml: 2naq 𠄎 2ryeq'2 は希求法を表す動詞接頭辞であるが、𠄎 1ml: 2naq 「錯誤」の意味から考えると、「たとえ～しても」という条件説を導き出していると考えられる。
- ③𠄎 1phl 1dzyen2 価格。𠄎 1phl は「価値・価格」、𠄎 1dzyen2 は「銭」の意味である。
- ④𠄎 2kyeu 1kya 不揃い、仲違い。『掌中珠』には「𠄎 2kyeu 1kya 事務參差」という一節が見られる。

99) ①𠄎 ②𠄎 ③𠄎 ④𠄎

2ngo:n 2dzi:q 2fe: 1twyo' 2myeq'2

案件は官吏が探し、

⑤𠄎 ⑥𠄎

2je: 1benq 2ci: 2de: 1ti:q

冊書を置く

- ①𠄎 2ngo:n 『掌中珠』には、「𠄎 2ngo:n 2dzi:q 2fe: 1twyo' 2myeq'2 案檢判憑」という一節が見られる。𠄎 2ngo:n は書類あるいは個々の案件を意味すると見られる。
- ②𠄎 2dzi:q 官吏。『掌中珠』では「𠄎 2dzi:q 司吏」という表現も見られる。
- ③𠄎 2fe: 𠄎 2fe: は希求法を表す動詞接頭辞である。
- ④𠄎 1twyo' 2myeq'2 𠄎 1twyo' ・ 𠄎 2myeq'2 とともに「探す」の意。『文海』では、𠄎 1twyo' に「𠄎 1twyo' 2myeq'2 𠄎 は 𠄎 1twyo' 2myeq'2 なり」という注が見られる。また、『同音』では 𠄎 2myeq'2 の注として 𠄎 1twyo' が使用されている。
- ⑤𠄎 2je: 1benq 2ci: 𠄎 2je: は「綱紀」という意味を持つが、『類林』では「主簿」の訳語として 𠄎 2je: 1benq 2ci: という表現も見られることから、「帳簿」「名簿」などの意味も持つと思われる。また、𠄎 1benq は「昇級させる」という意味の動詞である。さらに、𠄎 2ci: は「根」という意味を持つが、書籍を数える助数詞、あるいは書籍そのものの意味としても用いられる。以上のことから、𠄎 2je: 1benq 2ci: は皇帝が臣下に命令を下す書である「冊書」とであると解釈した。
- ⑥𠄎 2de: 𠄎 2de: は希求法を表す動詞接頭辞である。

100) ①刻𪛗②𪛗③𪛗

1tI: 1te: 1ma: 2ryeq2 2ri:r

もし停滞があれば、

④𪛗𪛗⑤𪛗𪛗

1ka:q 1dyu 1jI: 1cyuq2 2'wyeq2

畏れを持ち互いに守護する

①刻𪛗 1tI: 1te: 刻𪛗 1tI: 1te: は仮定節や条件節を形成する副詞である。

②𪛗 1ma: 𪛗 1ma: は推測を表す副詞である。

③𪛗 2ryeq2 2ri:r 停滞。『掌中珠』に「𪛗𪛗𪛗 莫要住滞」という一節が見られる。

④𪛗𪛗 1ka:q 1dyu 𪛗 1ka:q は「恐れる、敬う」。𪛗 1dyu は所有の動詞である。

⑤𪛗 1cyuq2 𪛗 1cyuq2 は名詞句に後置されて「仲間」という意味を持つ場合と、動詞句に後置されて「互いに」という意味を持つ場合がある。本例は後者の用法である。

2. おわりに

これまで、6回にわたって『金砕』全文の日本語訳を試みてきた。『金砕』の翻訳を通して分かったのは、文字が流麗でほぼ全文が揃った No. 741 は意外に誤字が多く、かえって No.742 のほうが正確であったこと、未分類だった文献の中に『金砕』の手習いが含まれていることである。

今後の課題としては、識字教育テキストとしての『金砕』の有用性を確認したいと考えている。小高(2009b)では、夏訳『孫子兵法』及び『華嚴経』の一部における『金砕』収録文字の使用頻度を調査し、文字総数における『金砕』収録文字のカバー率が 60% 台前半であることを明らかにした。その他のテキストにおける『金砕』収録文字の使用状況についても引き続き調査していきたい。

参考文献

- 荒川慎太郎(2002)『西夏文『金剛經』の研究』,京都大学博士論文
俄羅斯科學院東方研究所聖彼得堡分所 中國社會科學院民族研究所 上海古籍出版社 編
(1999)『俄藏黑水城文獻 10』,上海古籍出版社
- 骨勒茂才 著、黃振華 聶鴻音 史金波 整理(1989)『番漢合時掌中珠』,寧夏人民出版社,銀川
- 韓小忙(1998)『西夏道教初探』,甘肅文化出版社,蘭州
- Кепинг, К. Б.(1979) *Сунь цзы в тангутском переводе: Факсимиде ксилографа: Изд. текста, перевод, введение, комментарий, грамматический очерк, словарь и приложение.*, Наука
- 小高裕次(2005)「西夏文『新集金碎掌置文』の研究 1」,『東アジア言語研究』8:1-8
(2006)「西夏文『新集金碎掌置文』の研究 2」,『東アジア言語研究』9:16-23
(2007)「西夏文『新集金碎掌置文』の研究 3」,『東アジア言語研究』10:19-26
(2009a)「西夏文『新集金碎掌置文』の研究 4」,『東アジア言語研究』11:31-41
(2009b)「從收錄文字的使用頻率來看西夏文『新集金碎掌置文』的實用性」,西夏語文與華北宗教文化國際學術研討會,於:中央研究院
(2010)「西夏文『新集金碎掌置文』の研究 5」,『東アジア言語研究』12:48-59
- Кычанов, Е. И.(2006) *Словаль Тангутского(Си Ся) Языка*, Университет Киото, Киото
- 李範文(1997)『夏漢字典』,中國社會科學出版社
- 李範文·中嶋幹起 編著(1997)『電腦處理 西夏文雜字研究』,不二出版
- 林英津(1994)『夏譯《孫子兵法》』上下,中央研究院歷史語言研究所
- 聶鴻音 史金波(1995)「西夏文本《碎金》研究」,『寧夏大學學報』7(2):8-17
- 西田龍雄(1970)「西夏」,『モンゴル帝国』80-86,世界文化社
(1975)『西夏文華嚴經』Ⅰ,京都大學文學部
(1976)『西夏文華嚴經』Ⅱ,京都大學文學部
(1977)『西夏文華嚴經』Ⅲ,京都大學文學部
(1986)「西夏語『月々樂詩』の研究」,『京都大學文學部研究紀要』25:1-116
(1997)『西夏王國の言語と文化』,岩波書店
- 史金波 白濱 黃振華(1983)『文海研究』,中國社會科學出版社
- 史金波 黃振華 聶鴻音(1993)『類林研究』,寧夏人民出版社